



仕事か趣味か判別としない読書で、仕事上読む本が二〇％ぐらいです。森絵都さんは前者のほうですね。森絵都さんの作品は、だいたい最初から出た順番にずっと読んできていました。『カラフル』を読んだ時に「アニメ作品にした」と強い思いがわき上がりました。

西山 これはアニメ作品にしたい、というのは読みながらそういう思いになるものなのですか？

内田 『カラフル』が出た九八年頃、サンライズがやっているロボットもの、あるいは純粹に子ども向きのドラえもんとか、アニメーションもいろいろあるわけですが、コアファン向けアニメでも子ども向けアニメでもない、普通の中学生や高校生以上の人達へ向けたアニメ作品がないじゃないかと感じていたような気がします。『カラフル』を読

んだときにほとんど無意識的なのですが、これだったらできるんじゃないかと思った。

西山 その時に同時に、監督していただくなら原さん？

内田 私はプロデューサーだから誰にしようかと考えるわけですが、なかなかしっくりこないまま何年か過ぎて、万博のやつ……すみません、タイトル覚えて無くて(笑)。

西山 「クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶモーレッツ！オトナ帝国の逆襲」、二〇〇一年四月公開ですね。

内田 そう、それを見たとき、ああこの人かなと。後で調べて原君のことを知りました。

原 自分の人生でサンライズと関わりが出るなんて絶対ないと思ってましたよ(笑)。それが、サンライズの偉い人が会いたいと言ってきた。「ぼくできないですよ」と断わるシミュレーションはしていて、でも、話が来たこと自体自分の気持ちの中に満足させてもらえるのもあって、ともかく会うだけは会おうと思った。そうしたら、初めて会う内田さんから、いきなり『カラフル』を渡されて、これを君に作ってもらいたいんだけどと、ものすごい具体的に率直な話だった。サンライズの人が活字だらけの本を持ってきて、これをと……。まず、絶対ロボットの絵か何かと違ってたんですね。あれ？ 小説？ 何これ？ と(笑)。

内田 原さんがシンエイ動画の社員であるとも知らなくて、フリーの人だと思っていつもの調子で声かけた。あと、